

### 第3回東南アジア分科会議事録

開催日時:平成19年1月25日(木) 13:00-15:30

場 所:東京文化財研究所 会議室 地下

出席者:分科会委員(上野・友田・布野・桃木)、文化庁(浅野・樋口)、外務省(関・守山・細川)、国際交流基金(片山)、東文研(永井・稲葉)、奈文研(井上)、事務局(豊島、延近、田代)

欠席者:分科会委員(石澤・片桐・柴山・坪井・中川・宮崎・大和)

#### ■ジャワ中部地震による文化財被害調査について(文化遺産国際協力センター 稲葉信子)

##### 報告と概要

- 2006年11月22日・23日に開催されたジョグジャカルタ(インドネシア)における文化遺産修復協議会合(Consultative Meeting)に関する報告
- 2007年3月には、ユネスコとインドネシア政府が主催してプランバナナおよびタマン・サリに関する文化遺産保存協力専門家会議を開催する予定である。
- ジャワ2次調査として、2月20日～3月10日に調査団を派遣する予定である。

・草の根の足場は、調査のためか？

→ 調査および、その後の修理計画のためのものである。現在臨時で足場が設置されているが、数が足りない状態である。

・足場の工事は日本の会社が担当するのか？

→ 会社ではなく、インドネシアでは、現地保存事務所が独自のスタッフを抱えており、彼らが足場を組むようになっている。今回文建協にってもらい、足場の組み立ても指導してもらう予定である。

・ジャワに対する援助については、財源も非常に難しい問題で、今回は国際交流基金・文化庁・外務省という組み合わせにより、実現したが、その後は、草の根文化無償による足場の供与だけしか目処がたたなかった。今回は、文化庁で予算を確保できたので、第二次調査団が派遣される次第である。(文化庁)

・第2次調査もまだ「調査」であるように思うのだが、今後の援助計画というものは？

→ 一次調査の報告により、足場の供与と調査によって修復のマスタープランをつくる、という結果がでてきた。修復工事については、一次調査では言及されていない。おそらく継続的に専門家を派遣し、修復マスタープランに提言するのが、現実的なものであると思う。

## ■タンロン遺跡に係わる考古・建築専門家派遣についての報告

(奈良文化財研究所 井上和人)

### 報告と概要

- 全派遣期間は12月28日～1月22日。派遣されたのは、上野邦一(奈良女子大学)、井上和人、西村康、小澤毅、金田明大(奈良文化財研究所)の5名。
- 第一段階においては、発掘精査方法について、第二段階として測量に関する研修を実施した。
- 遺構の理解について、ベトナム側と日本側専門家では見解がちがう事が明らかになった。
- 遺構の再精査を行うことが必要。

・詳しい報告書をだしてほしい。また、その際は、どういう目的でやった結果、どういう研修・支援成果がでたか、ということを明記してほしい。(文化庁)

・今回はB地区の中の李朝部分の概要が明らかになったと思う。ベトナム側は、自身で他地区の調査はできないのではないか。

→ 今回一緒に精査作業をしたのは非常に意味があったと思う。しかし、本当にベトナム政府自身による発掘ができるのは、3年先だろうと思う。

・遺跡精査の現状をみると、2010年の世界遺産登録は難しい。

・C,D,A地区もB地区と同じ程度の精査をする必要があるのではないか。遺跡の精査については、おそらく専門委員会で意見をベトナム側の考古遺跡班と意見を交わす必要があると思われる。

・ユネスコ信託基金により、タンロン遺跡の保存に関しての予算がつくことがおよそ決定した。そうすると、年間計画を作成することが必要である。各班には、案をだしていただきたい。今後、ユネスコも交えて信託基金の案として計画をまとめていく必要がある。

・今年度として

## ■コンソーシアム活動報告 (文化遺産国際協力センター 稲葉信子)

・ 今後の東南アジア分科会の実施について

→次回は3月29日(木)の午後1時～午後3時開催